

乳がんにかかりやすい人って… あなたは大丈夫？

乳がんの危険因子

- ① 年齢(40歳以上)
- ② 未婚の人
- ③ 高齢初産の人(出産をしていない人)
- ④ 初潮が早く、閉経が遅い人
- ⑤ 肥満の人(閉経後)
- ⑥ 血縁者に乳がんになった人がいる
- ⑦ 良性の乳腺疾患になったことがある
- ⑧ 乳がんになったことがある
- ⑨ 閉経後ホルモン補充療法・経口避妊薬使用の経験がある(欧米では危険因子とされているが、日本人でははっきりしていない)

参考:厚生労働省 「検診手帳」より

Let's 乳がん検診!!

乳がんの発生率が高くなる40歳を過ぎたら、毎月の自己チェックに併せて、2年に1度のマンモグラフィなどによる検診を受けましょう。マンモグラフィでは、自己チェックで見落としがちな小さながんを発見することが可能です。

●マンモグラフィ(乳房X線撮影)

乳房専用のX線撮影装置を使用する検査方法で、しこりとして触れない早期の乳がんを石灰化で発見できるのが特徴です。左右の乳房を片方ずつプラスチックの板で圧迫してはさみ、上下左右の2方向から撮影します。検査は10分程度で、圧迫している時間は数十秒です。圧迫により、乳房内部の様子が鮮明に映し出されるとともに、放射線被ばく量を少なくすることができます。被ばく量はごくわずかで危険はほとんどありません。

ただし、乳腺が密な若い人の場合は、しこりを見つけることが難しい場合があります。

もしも気になる症状があった場合は…

いつもと違う乳房の状態に気付いたときは、すぐに乳腺専門医のいる医療機関を受診しましょう。

■医療機関がわからないときは…

東京都医療機関案内サービス「ひまわり」

☎ 03-5272-0303

<http://www.himawari.metro.tokyo.jp>^(※)

※トップページの「医療機関をさがす」の「診療科目や診療の領域でさがす」から「乳腺領域でさがす」を選択してください。

マンモグラフィやエコーの装置を設置しているかどうか、あらかじめ医療機関に問い合わせしてから受診すると良いでしょう。

Point

気になる症状がある場合は
乳腺専門医のいる
医療機関へ



ピンクリボンは、アメリカの乳がんで亡くなられた患者さんの家族が、「このような悲劇が繰り返されないように」との願いを込めて作ったリボンからスタートした、乳がんに関する啓発運動のシンボルマークであり、乳がんに対する理解と支援のシンボルです。

乳がん自己触診 のすすめ



乳がんとは?

乳がんの自覚症状の多くは乳房のしこりです。初期には疲れやすい、食欲がないなどの内科的な症状はほとんど現れません。

現在のところ、一般的には乳がんを予防する方法はありません。しかし早期のがん(直径2cm以下)であれば、より高い確率で完全に治すことができます。

さらに、乳房を温存しながら、わずかの切除手術でがんを取り除くことも可能です。

早期に発見し、治療を開始すれば、決して恐い病気ではないのです。

大田区健康政策部保健所
健康づくり課
成人保健担当